

何でも語るコーナー

第5回:環境について

環境について

05/4/7

山...雑木林...そして人々。今の日本に残る大切な景観であり、昔から営まれてきた日本的な生活サイクルを語る生き字引でもあります。

ですが、こういう光景も、今は減るばかり。これから増えていくことは無いと思います。パソコンが無いだけで今の人たちは生活を満足に送れないのですから、それら(便利なものを含め)を犠牲にしてまで、昔の人たちのような生き方をしたがる人もいないと思う。だって、自分達が今まで送ってきた生活こそが、一番長い習慣なのですから。

ですが、最近は田舎暮らしがはやっている模様。都会暮らしに疑問を持ち始め、真剣に生きる手段を探って、田舎に引っ越す人も増え始めています。ですが、これらの人たちは、パソコンも無い時代に生まれ育ってきた人たちが大半を占めます。つまり、今の人は単に都会生活に嫌気がさして、田舎生活に憧れをもって結果、都落ちしたわけではないと思う。古きよき日本...なんて堅苦しいことは言わずに、充実した生活を送るのはすばらしいと思います。

そして、そこに無くてはならないもの...それは、自然です。特に、水と植物と動物と食料...これが無くては生きていけない。環境といえば大体は土壌や大気や植物などを指すと思いますが、広く言えば、生きとし生けるものを取り巻く環境を指すと思います。

で、環境に良いとはこれらの...言ってしまうと、地球に優しいことを指し、そのためにはリサイクルをし、ごみを出さず、エネルギーを有効活用することが大切だということが良く引き合いに出されます。

が、やはり一番大事なのは一人一人の心がけなのではないでしょうか？当たり前といえどそこでおしまいです。当たり前といいながらごみをポイ捨てしているようでは、環境なんていっこうに良くなりません。わかっちゃいるけどやめられない...こういう人が増えたら、住んでいる町の景観やコミュニティまで悪くなってしまふ。

考えてくださいよ。一人がリサイクルをし、無駄な買い物を減らし、地球に良いことをしたとしても、今の環境は変わりません。ですが、1万人が同じように自覚を持っていたら...単純には1万倍、地球に優しいのです。

で、一人一人が出来ること...特に、普段から出来ることは、何よりごみを出さないことではないでしょうか？

たとえば、スーパーのレジ袋を受け取らないだけで、原油を節約できます。節約というより、新たに有限資源を掘り起こさなくてすむのです。つまり、地球の姿を変えずに済むのです。今までだって、人々は地球の形を変えて反映してきました。ですが、それは地球をきちんと見据えて、共存できる形で利用してきた結果です。自然への感謝を怠らなかった...知恵を大切にしてきた生き方です。無駄な行為は、今の人間からすれば遠く及ばなかったでしょうね。

今の人々は、無駄な行為で地球を痛めています。当たり前のことですが、無駄を減らせば地球に優しいですよ？だって、地球を削って無駄を作らなくても済むんですから。僕の大好きな言葉ですが、1たす1は2よりは小さいけど、1よりは大きいんですよ。環境を意識するときも同じことだと思います。単純計算は出来ないけど、減ることは無い。

で、次の段階で、エネルギーと節約の行為の釣り合いを考えるとよいと思う。

極端に、冷蔵庫は一回0.5秒まで…などと決めて、中のものを出すのに苦労しては、地球との共存ではないと思う。無駄さえ無くせば、かなりのエネルギーを減らせるんですから。無駄でないものにまで神経をとがらせては生活が不便になってしまいます。

また、水がもったいないから、風呂は一週間に一度…というのも困りますよね？いつもの生活スタイルから無駄をとりさえすれば良いのですから、無駄をしすぎないのが継続につながるでしょう。

昔の人を見習って…洗濯は川で…なんてところまで行くと、時代は逆戻りです。人々は、今まで便利を優先しすぎてきてしまったわけですから、便利すぎる世の中なものどうかとは思いますが、改善したことまで犠牲にして、時代ごと逆戻りしてはいずれ今のままたに戻ってしまうと思う。

3例を挙げてみましたが、何が言いたいのかというと、よく考えて環境へ配慮するネ木だということ。便利にまたがって生活しているわけですから、そこから無駄を無くすことを考えるということが、地球との共存のだい一歩だと思えます。

さて、日記からの引用を紹介！

人工林…人工林は昔の人(といっても、戦後とかかな。人工林の多くはまだ木にとって、2世代3世代なわけです。もっと昔からの名産地は、やはりもっと昔から丹念に手入れをしてきたわけですがねえ)が手塩にかけて育てた、木材を取ったりするための木…すなわち、杉やら松やらを育ててきた場所。間引いて、剪定して、真っ直ぐ…それこそ、「直ぐ」な杉ができるようにコントロールしたりするわけです。

しかし、問題は、採算を取れずに放棄したなどの理由で増えている雑木林や人工林での景観破壊。緑があることには、砂漠よりましだろうが、効率よい林を作るため、大体、1種類の木を植えることになる。しかも、剪定をし、間引く。枝も少ないし、葉も天井ばかり。しかも、往々に背が高いのは、杉など針葉樹の特性からして当然。天然林とは違い、見てくれの成長も早いらしい。動物だって、てっぺんのほうに行くのはつらいだろう。針葉樹が多く、どんぐりとかもほとんどないから、冬眠の準備は大変そうだ。

よく考えたら、日本には四季がある。四季を通じて、1年中、季節を感じる事ができる。だから、春は息吹、夏は花、秋は紅葉、冬は冬眠…このサイクルが、日本には特に備わっている。1種類の林というのは、雑木林と違い、皆が一斉に同じ挙動を起こす、しかも、人工林は天寿をまっとうできるのか。わかっている寿命をまつ植物の気持ちを察してみたい…。

と…。ここで終わっては偏った最悪の意見になってしまうので、別の視点で見てみる。

確かに、木は神聖なものという位置づけもされている。昔から、お供えするのは取れた穀物やら、木の実草の実だ。穀物は、ほとんど人間が作る。草の実のように、自然と採れるようなものではない。人間が食べるから、お供え物になるわけだ。

そうやって、品種改良や選抜を繰り返して、稲などは現在のような作りやすい、よりおいしい作物になったわけですね。これは、自然破壊なのかという話。確かに、自然はこんな稲を作らなかったかもしれない。りんごやみかんや、果物だってそうだ。ほかの動物が食べてくれるからといって大きくなるのか？実のなる植物にとっては、花が何より重要だし、種子散布にしても、鳥やら昆虫やらは小さい木の実を口に作るわけだし、草の実だって、こぼれやすい構造のほうが、より効率よく種子をまけるわけだから、たとえば、今の稲のように籾がこぼれにくいような構造は、でき得ないのだ。というか、どっちが優勢かといったら、こぼれやすいほうだろう。すずめなどの鳥が啄むわけだし、地面にも撒きやすい。

しかし、これらの人工的…ヒト的な行為は、ほかの動物にはできない。昨今の遺伝子組み換えもそうだが、自然にできないのは百も承知である。その前提の上で、パイオだとかを行っているのだ。その前段に…歴史に、品種改良というものがあった。どこまでが自然破壊かと考えてみるが、やはり、破壊ではないと思う。なぜなら、これを破壊というのなら、先祖全部を否定することになるのだから。おいしそうに食べている食材も、栽培用に適した構造への、先祖からの改良の歴史があつてこそなのだ。

それが、度が過ぎて、知的好奇心やら商売やらが先行する図式が、無神経な自然破壊を生むことになる

と思う。昔から、栽培化への道筋は変わっていないわけだし。選抜し、食べて、種を採る。これは、破壊ではない。と思う。

カラスが、おいしい実ばかり食べれば、少しは選抜になるのではないか。特に、同じねぐらですみ続けるカラスが10年も実を食べていれば、立派な選抜だ。まあ、おいしさとか言っていないで食べてるだろうけど。これはカラスの自然破壊なのか。

自然のバランスがかたぶくような、過度な操作がないのなら、昔からの営みと、なんら変わらない。でも、自然に感謝する心は、失いかけているだろう。バイオをやっている人は、自然に感謝する心より、できる植物の姿かたちの方が気になると思う。エンジニア感覚でバイオをやっている人が多いと思うのだ。テクノロジーだし。それも、大企業になるとなおさら。遺伝子なんのその。訴訟なんのその。もはや、ただの工場だ。

自然に感謝する気持ちを改めて持つ。木に対して接すればどうだろう。100年単位で歴史を見守ってきた、ご神木だけに寄らず、木は人の何倍も生きているんだということ。日本人がおかしくなってきたのは、そんな自然への感謝を忘れかけた時、産業と引き換えに失った、大切なもの・・・いや、心であったのだろう。

もう、十分、自然を破壊している。ここらへんで、もうやめにしよう。自然は破壊しなくても、科学はある。頭の使い方なのだ。むしろ、今の日本で、破壊する理由があるのか。車の排気ガスも減る。環境の法律も整備。屋上緑化なんていうのも法律になった。ここで昔と変わらない無神経な生き方をするのはどうかと思う。たばこを道草に捨てるのは、いかれてる。ちょっと考えてみるだけで、気づくはずだ。考えたくないならいざ知らず、考えることとすら忘れる人なんて、そうはいないのではないか。周りに同じ人ばかりいるから、考えられないのか。ではテレビでも見てみるといい。環境環境・・・21世紀は環境の時代らしい。どう変わるのやら。

確かに、昔にそっくり戻るのにはナンセンスだ。邪馬台国の昔の服装に戻ればいいのか、いや違う。だから、悪いことだけを治す。難しいだろう。自然というのは、失うことのほうがはるかに楽だ。でも、人間、特に、おかしい人間は、大切なものは失わないとわからない。大事な体に傷がついた原因が、排気ガスだと知ったら、やるせないのではないか。1人1人が自覚するほうが、はるかに近道だ。そして、ありがたいたが、ごみを減らし、エネルギーの無駄使いは避ける。忙しいからと、なおざりにするのは、もう理由にならない。21世紀なのだから。

1つのことしかできないのか？いや違う。1つのことしかやりたくないからだろう。休みの日に地域ボランティアにでも出てみたりすればどうだろう。清掃とか。小学生だって、昔も今も、地域の勉強でボランティアをする。時には、大人が感心するような、地域のためになることだってやる。

1人1人の次は地域ごとに。地域で区切っているなら、地域でやってみるのもいい。地域というのはそれぞれ文化がある。自然に加え、ビルの多さ、畑の多さ、緑の多さ・・・地域で自然を考えるのが一番だと思う。考えないから、その地域は自然を忘れていくのだ。昔は、自然とのバランスを考えてきた。しかし、今は科学とのバランス・・・経済とのバランスが優先する。だから、これを考え直す。経済と自然と文化と科学との兼ね合い。

21世紀はきっと、イイ時代になるのか・・・

記事の作成者

この記事は、管理人のOIDUSが作成しました。

このページへのリンクはフリーです。転載も許可しています。転載の際は内容を変えないようお願いいたします。また、このページを利用して何かおきても、作成者のOIDUSは一切、責を負いません。自己責任でご利用くださいネ！（なんと無責任な・・・）

この記事に関する質問、苦情、要求などがございましたら・・・

oiduscom@yahoo.co.jp

宛てにメールをお寄せください。